

## メルマガコラム

- かしこいクルマの使い方ミニコラム Vol.1  
「クルマ、安かってほんど？」
- かしこいクルマの使い方ミニコラム Vol.2  
「歩く暮らし、歩かない暮らし」
- かしこいクルマの使い方ミニコラム Vol.3  
「クルマ 10 分、二酸化炭素 1 キログラム。」
- かしこいクルマの使い方ミニコラム Vol.4  
「「外気」に出る人、出ない人。」
- かしこいクルマの使い方ミニコラム Vol.5  
「お洋服と乗り物」
- かしこいクルマの使い方ミニコラム Vol.6  
「クルマのちょっと怖いはなし」

### 【メルマガコラム】

著者・藤井 聡 教授(京都大学大学院)

#### ●かしこいクルマの使い方ミニコラム Vol.1

### 「クルマ、安かってほんど？」

■例えば、平日の昼間、夕食の支度のために、  
何キロか離れたスーパーに買い物に行こうと考えているとしましょう。  
そのスーパーへはもちろんクルマで行けますが、バスでも行けるものとしましょう。  
こんな時、皆さんはクルマかバス、どちらを使いますか？

■おそらく、ほとんどの方が「クルマ」とお答えになるのではないのでしょうか。  
クルマの方が早いし、いつでも出発できますし、  
その上、次のようにお考えになるかもしれません。

■「ガソリン代なんてたかがしれている。

だけど、バスだったら何百円もかかってしまう。

クルマの方が、断然、経済的」

■でもちょっと待って下さい。確かに、クルマの方が便利でしょう。

でも、クルマの方が安い、というのはホントでしょうか？

■普段、気になるのはガソリン代くらいかもしれませんが。

でも、オイルやタイヤは定期的に換えないといけないし、

保険や税金や車検代だって定期的に必要です。

そして当然ながら、最初にはクルマ購入費が必要です。

■これらを全て考慮すると、例えば

「中古で買った一〇〇〇CC 程度の小型のクルマを、節約しながら利用する」

という条件でも、ざっと計算すれば一日あたり二千円程度になります。

これに加えて、違反をしまえば罰金が必要ですし、

車体を「擦ったり、ぶついたり」してしまえば修理代が何万円、何十万円とかかります。

そして大きなクルマの場合には保険も税金も高いですから、

場合によっては、一日あたり三千円、四千円にもなってしまいます。

これでは、毎日タクシーを使う方が安くあがりそうです。

■そうなのです。確かにクルマは便利です。

しかし、そのためにかかなりのオカネを支払っているのです。

ところが、私たちは、購入時や車検時に「まとめて」払っているので、

その「高価さ」に気がついていないのです。

■例えばたくさんクルマを持つ代わりに一台減らして、

上手に「バス」を使うようにすれば、家計はずいぶん助かるかもしれません。

なんと言っても、バスは、一日数百円で済みますから。。。

## ●かしこいクルマの使い方ミニコラム Vol.2

### 「歩く暮らし、歩かない暮らし」

■皆さんは、次の質問にどのようにお答えになりますか。

「どれくらいまでなら、クルマを使わずに歩きますか？」

1km、2km、それとも数百 m くらいでしょうか。

実は、この距離は国によっていろいろちがうようです。

■例えば、スウェーデンの人達はおおよそ“1.8km”程度までなら歩くとのこと。

時間にしておおよそ 20～30 分です。

ところが、アメリカではそれより短い“1.3km”程度までしか歩かないようです。

この違いはどこから来たのでしょうか？

■その答えは、普段の「生活習慣」の違いにあります。

スウェーデンでは、普段からバスや市電を使い、駅やバス停まで歩く人が大半でした。

でも、アメリカでは、歩くと言えば、駐車場に行く時くらいで、

何をやるにしてもクルマを使っていたようです。

■そうなのです。

普段からクルマばかりを使っていると、

つついちちょっとした距離でも歩くのが面倒になってしまうのです。

■「歩くのが健康に一番」

よく耳にする言葉ですが、そのココロはここに隠されています。

私たちは、「歩けば歩くほど、楽に歩けるようになる」のです。

そしてなんとと言っても「徒歩 20 分はジョギング 10 分の運動」に相当します。

つまり、私たちは、無理をして運動などしなくても、少し歩くように心がけるだけで、十分健康的な暮らしをすることができるのです。

■「ちりも積もれば山となる」

時には、クルマの鍵を置いて、ちょっと歩いてみるのも良いのかもしれないね。

## ●かしこいクルマの使い方ミニコラム Vol.3

### 「クルマ 10 分、二酸化炭素 1 キログラム。」

■「地球環境の問題」。最近よく耳にする言葉ですね。

どうやら、私たちの暮らしの中で二酸化炭素・CO<sub>2</sub> なるものが出ていて、それが原因で「地球温暖化」が進行しているらしい——。

■この問題について、次のようにお考えの方はいらっしゃるかも知れません。

「CO<sub>2</sub> を出さないように心がける事は必要。

でも、私ひとりくらい、どうしようがあまり関係ない——」

■まさにその通り。

世界中が CO<sub>2</sub> を大量に出し続けている中で、

自分だけが CO<sub>2</sub> を出さなくても温暖化は止まりません。

逆に、世界中が CO<sub>2</sub> を出さない生活を営んでいる中で、

自分一人だけ CO<sub>2</sub> を大量に出しても温暖化は生じません。

しかし——。

■この問題が本当に深刻なのは、

まさに、この「私ひとりくらい....」の心理があるからなのです。

「私ひとりくらい....」と皆が考えるから、暮らしの中の CO2 排出量は増え続け、

その結果、地球温暖化は徐々に進んでいきます。

■世界中の様々な研究機関はこの問題についてのいろいろな研究を重ねて来ました。

問題を一発で解決する“新技術”や新しいタイプの政治・経済システムはないか、等々。

その結果、最も効果的な方法は、

次のような方法であることが明らかにされつつあります。

「皆が、少しずつ環境に配慮するようになること」

■何とも当たり前ですが、

どうやら、こうした正直な方法が一番必要とされているようです。

だとすれば、例えば「私ひとりだけでも....」と考えて、

少しずつ CO2 を減らす工夫をすることは、無駄なことではないかも知れませんね。

■例えば、クルマ利用を 10 分使えば、平均で約“1 キログラム”の CO2 が排出されます。

1 キロといえば、ちょうど 1ℓ のペットボトルのジュースを買った時の重さです。

ちなみに、クルマの無い世帯で排出される CO2 は平均で 1 日あたり約 4 キログラム。

お風呂やエアコンを我慢するより、クルマをほんの少し減らす工夫をする方が、

無理なく、CO2 を減らせるかもしれません.....

## 「外気」に出る人、出ない人。」

■皆さんは、今日どれだけ「外気」に触れたでしょうか？

朝起きれば部屋の中ですし、

お店やレストランに入れば建物の中で、オフィスもビルの中でしょう。

そう考えると、「外気」に触れたのは、昼食や買い物に出かけるときではなかったでしょうか。

■おそらく、歩いている時はずっと「外気」に触れていたことでしょう。

バスや電車では、少し外気から隔てられています。

ただし、駅やバス停で待ち合わせをしている時には「外気」に触れていたでしょうし、

駅やバス停に向かうときには、徒歩や自転車で「外気」に触れていたことでしょう。

でも、「クルマ」を使っているときはどうだったでしょうか。

■もちろん、窓をあけていれば、風は入ってくるかも知れません。

でも、それは「外気」というよりはむしろ「強風」といった方がいいかも知れません。

ましてや、窓を閉めてエアコンを入れていれば、そこには「外気」はありません。

もちろん、クルマを降りればそこには「外気」がありますが、

家やコンビニやレストランでクルマを降りても、

歩くのはせいぜい数十秒程度しかないことが多いのではないのでしょうか。

そうなのです。

クルマを使っている限り、私たちは、ほとんど「外気」に触れることが無くなってしまうのです。

■「外気」の中には、ひょっとしたら草や花のにおいがあるかも知れません。

虫や鳥の音が、聞くともしに聞こえてくるかも知れません。

よく見れば、そこには小さな花がいくつか咲いているかも知れません。

■もちろん、私たちは、季節なんて何も感じなくても、

ご飯も食べれますし、仕事も買い物もできるし、映画もテレビも楽しめます。

でももし、それだけでは何となくわびしいような、

物足りないような感じがあるとするなら———。

ごくごく当たり前の道を、今まであまり歩いたことの無い道を、

ゆっくりと歩いてみるのも、決して、わるいことではないのかも知れません。

## ●かしこいクルマの使い方ミニコラム Vol.5

### 「お洋服と乗り物」

■今日一日、どのようなお洋服を着ていましたか？

■一日中家でゆっくりしていたなら、気軽な格好で過ごしていたかも知れませんし、

「すぐソコ」にお買い物等でお出かけするだけだったら、やはり気楽なお洋服を着ていたかも知れません。

ですが、それなりにきちんとした格好をしていなければ何となく居心地が悪い場所はあるのではないのでしょうか。

そんな所とは、どんなところなのでしょう。

■おそらくは、“家の中”ではないでしょうし、

犬の散歩やジョギングで通る“道路の上”や“近所の公園”でもないでしょうし、

閉ざされた“クルマの中”でもないことでしょう。

そして、クルマを使って訪れるコンビニエンス・ストアやスーパーも少し違うのではないのでしょうか。

■ところが、“バスの中”や“電車の中”、“鉄道の駅”ではどうでしょう。

あるいは、バスや電車で訪れる駅前の商店街や百貨店、あるいは、レストランなどではどうでしょう。

多分、そうした場所では、少しだけ、ちゃんとした格好で出かけよう、とお考えになるのではないのでしょうか。

もちろん、クルマを使っている限り、きちんとした格好でお出かけすることはあるでしょう。

でも、クルマを使っている限り、そういう回数が減ってしまうのではないのでしょうか。

もちろん、毎日緊張し続けるのは大変なことです。

でも、たまには、少しお洒落でもしてお出かけするのも、楽しいことではないのでしょうか。

せっかくのお洋服も、それを着るための“ちょっとした機会”が無いと、もったいないかもしれませんね……

## ●かしいクルマの使い方ミニコラム Vol.6

### 「クルマのちょっと怖いのはなし」

■例えば、クルマと飛行機どっちを利用している時が「怖い」ですか？自動車事故と地震、どっちが怖いですか？

おそらく、クルマよりも飛行機や地震の方が怖いのではないのでしょうか。

■しかし、自動車事故で亡くなる方は年間1万人近くもいます。



これは阪神・淡路大震災のそれよりも、そしてこれまで国内で起こった飛行機事故全てを足し合わせた死者数よりもずっと大きなものです。

つまりクルマの方が命を落とすリスクが高いにも関わらず、あまり怖いとは思われていないのです。

■これにはいくつかの理由があります。

一回あたりの被害が地震や飛行機の方が大きいこと、  
地震や飛行機の事故と違って、クルマの事故はある程度自分で避けられること、等ですが、  
その中でも特に重要なものとして、「クルマが便利だから」という理由があります。

■私たちはついつい、自分にとって都合のよいように考えてしてしまいがちです。

例えば、喫煙者が「タバコは健康に害はない」と過度に考えてしまったり、  
賭け事をしていて負けが込んできたら「次は絶対に勝つに違いない」と考えてしまったり――。

■そういうものの一つに、「便利なものは安全だ」と思ってしまう心理があります。

例えば、あるアンケート調査では、「クルマよく使う人は、あまり使わない人よりも2倍以上クルマが安全だと考えている」という結果になりました。

でも、ホントは、クルマをよく使うの方が、事故の危険はずっと高いはずなのですが。。。

■クルマが便利だからこそ安全と考える。でもこれは勘違い。

事故死する運転者数から、平均的ドライバーが一生で死亡事故にあう確率を求めるとその数値はなんと「約250人に1人」となります。

便利であってもリスクはリスク。

クルマとかしこくお付き合いするには、こうしたリスクをきちんと知っておくことも大切なことかも知れませんね。